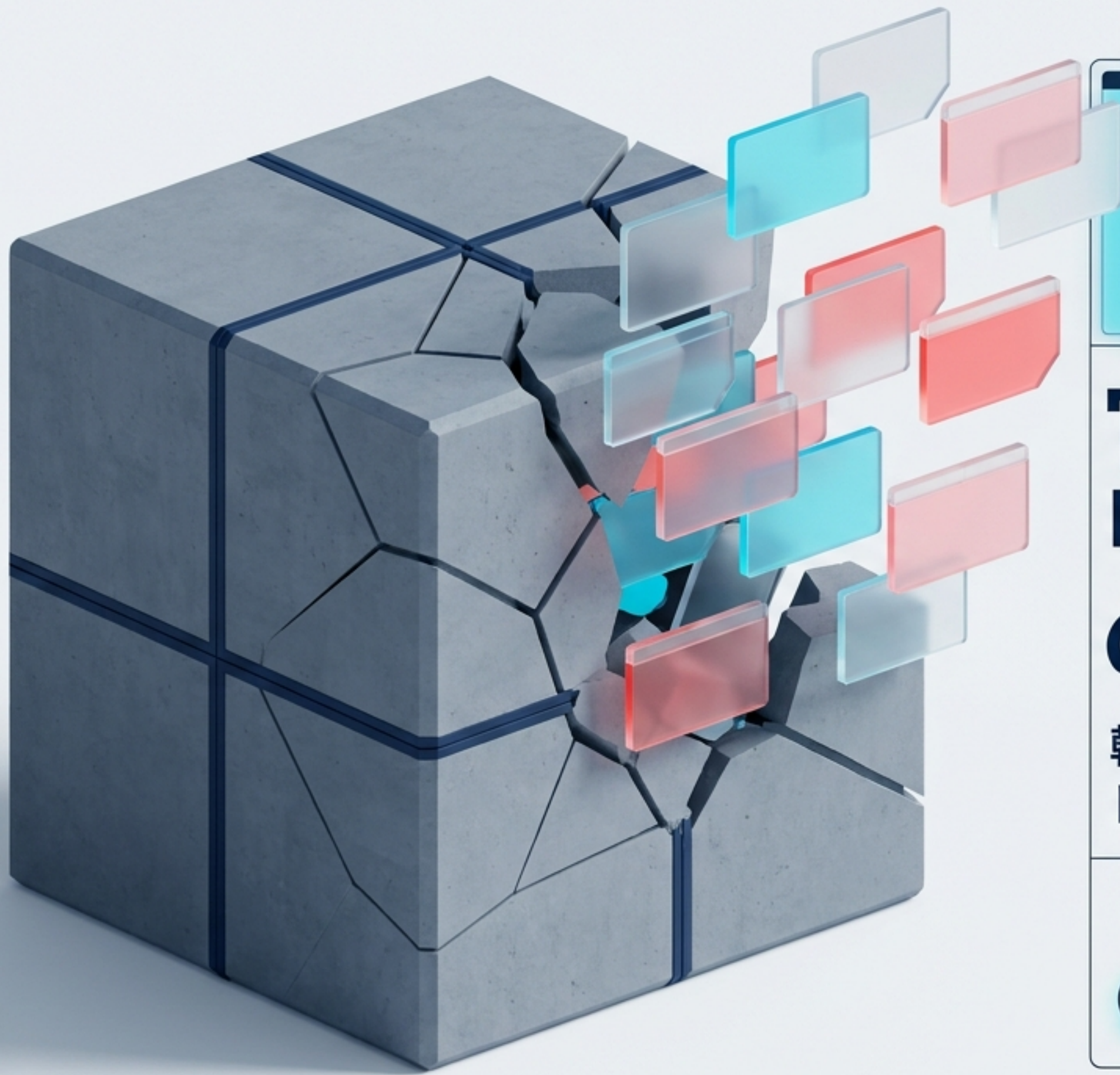


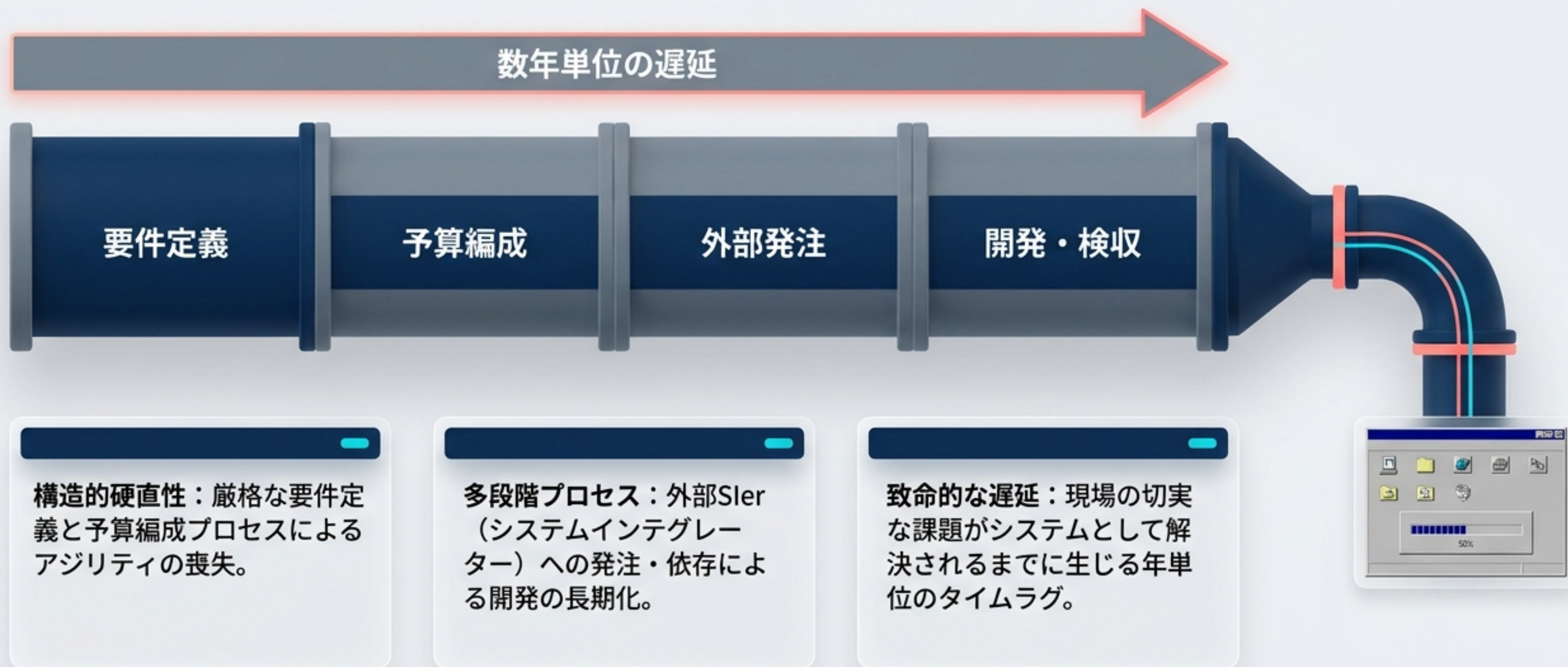


官僚組織を打破する 「バイブコーディング」 の衝撃

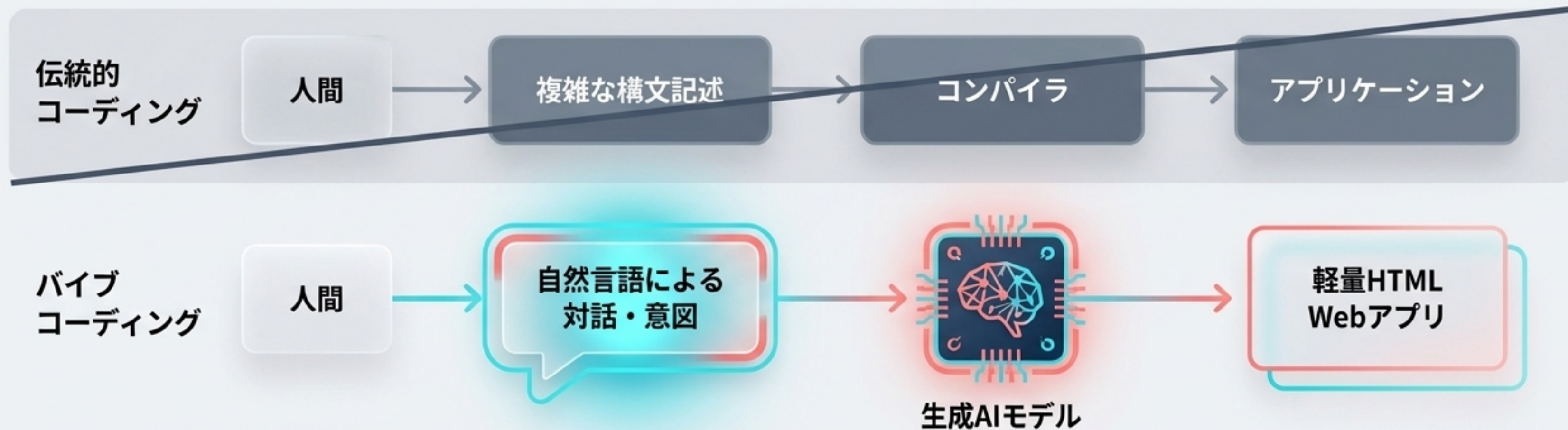
韓国・知識財産処が実践する、現場主導のAI
トランスフォーメーション(IP-AX) 完全解剖

The AX Blueprint: 組織の意思決定構造をAI駆動型へ再設計する実践的指針

従来の行政システム開発は、変化のスピードに対応できない 構造的限界に直面している。



「バイブコーディング」が、 専門的なプログラミングの壁を破壊する。

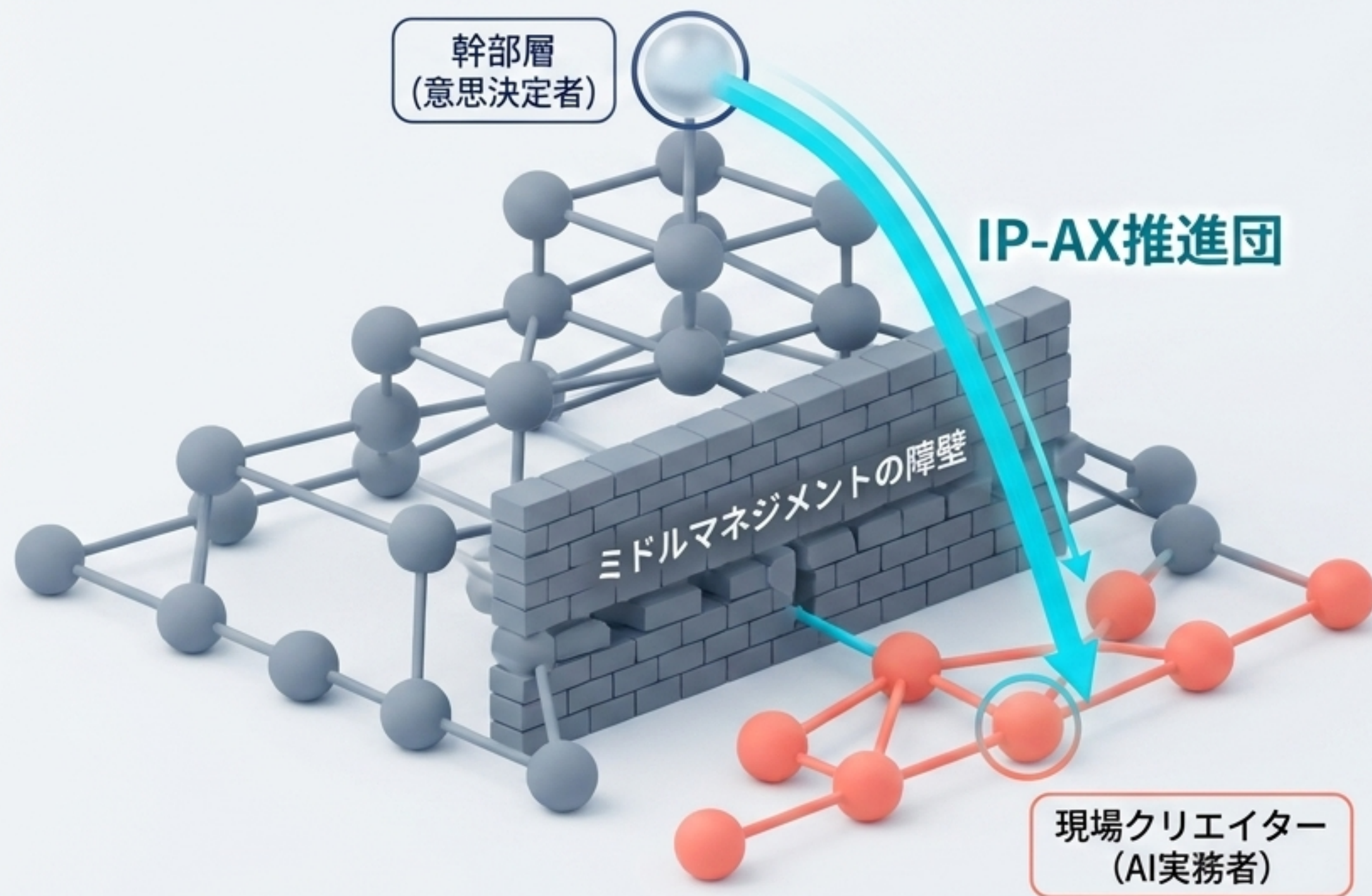


専門的なプログラミング言語の構文記述を介さず、自然言語による対話のみでソフトウェアを具現化。
現場の審査官や事務官自らが、即座に実動するアプリケーションを構築できるシチズンデベロッパー（内製開発）体制への鍵。

外部依存から「自給自足」へ、組織のシステム構築モデルが根本から反転する。

	従来の公共IT調達	知識財産処 IP-AXモデル
開発コスト	巨額の外部開発予算と維持費 	追加予算ゼロ（既存AIリソースの活用） 
リードタイム	数ヶ月～数年（法改正への即応困難） 	数時間～数日（急速な変化に即応） 
開発主体	外部SIerによる受動的構築 	現場職員と幹部による能動的内製化 
システム形態	硬直化したモノリス型巨大システム 	業務課題に個別対応する 軽量Webアプリ群 

ボトムアップの革新を全庁へ波及させる鍵は、 決裁権限を持つ幹部層の「直接体験」にある。



2026年5月、「知識財産人工
知能転換推進団（IP-AX推
進団）」発足。現場発の試み
を組織全体の制度的革新へ
と昇華させるため、処長およ
び局長級幹部自らがバイブ
コーディングによる開発実務
を直接体験し、意思決定構造
そのものをAI駆動型へと再設
計する。

わずか180分間で、組織トップのAIリテラシーを 「概念的理解」から「実践的応用力」へと昇華させる。

2026年8月27日 / 国際知識財産研修院
キム・ヨンソン処長ら約30名参加

50分

14:30 [教育: 50分] 基礎理論・事例共有
パイプコーディングの概念実演と、現場審査官
が先行開発したアプリの構造解析。

60分

15:30 [開発: 60分] 実践演習（自律開発）
幹部自身が自然言語でAIに指示し、資料整理や法規検
索などの定型作業を代替するHTMLアプリを即時実装。

50分

16:40 [総評: 50分] 共有・実演
開発成果物のデモンストレーションと、組織文
化定着に向けたトップの総括。

巨額の予算なしに構築された、包括的な 「政策支援AIエージェント群（IP-AXポートフォリオ）」。



現場の一過性の実験を、全庁的な生産性向上へと変換する 「開発・共有・拡散」のエコシステム。

1. 開発

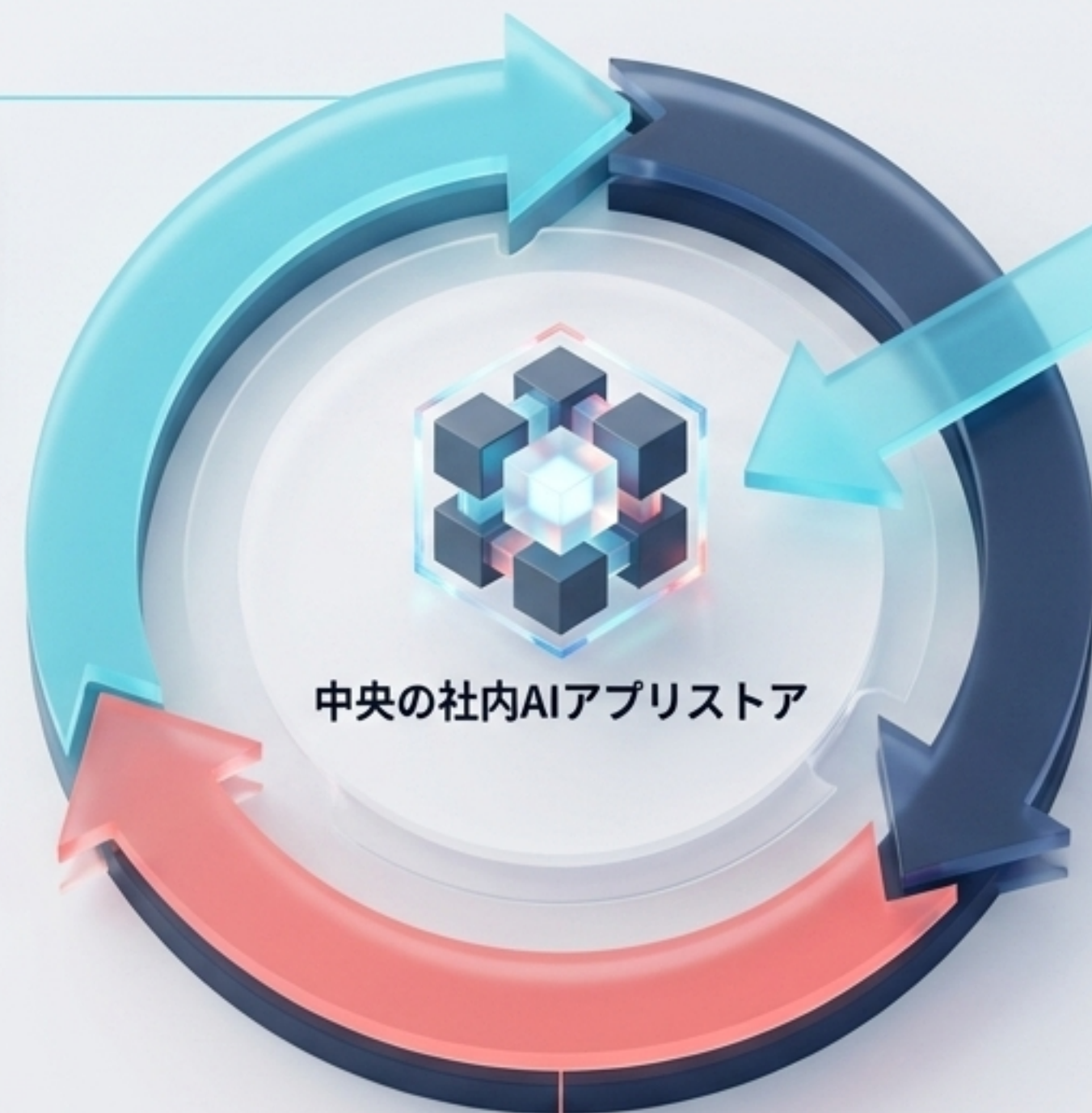
職員や幹部がバイブコーディングを通じ、現場のボトルネックを解消する業務ツールを自律的に作成。

2. 共有

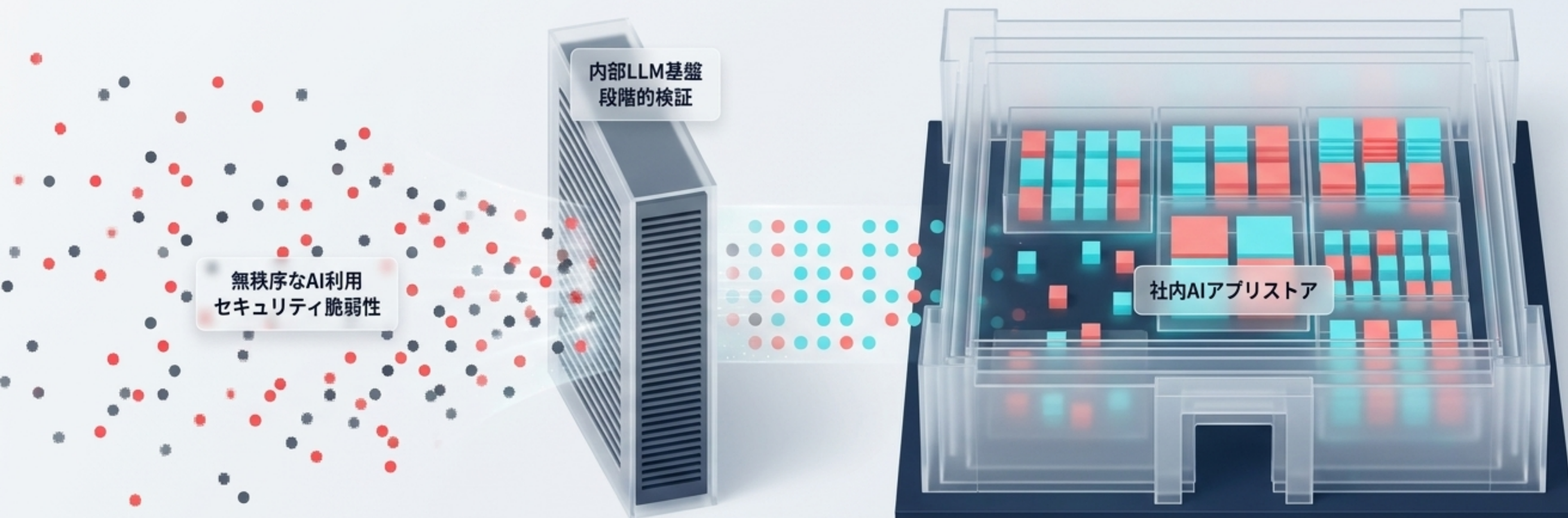
作成されたHTMLアプリを庁内プラットフォームに登録・公開。他部署による類似ツールの重複開発を排除し、実務知見をソフトウェア資産として蓄積。

3. 拡散

「AI業務ツール開発公募展」を通じた優秀ツールの発掘と、開発者へのインセンティブ付与。トップマネジメントの承認迅速化による文化醸成。



「シャドーITリスク」を排除するのではなく、公式プラットフォームへ包摂しガバナンスを担保する。



職員が個別にAIツールを無秩序に利用する情報セキュリティ上のリスクを、禁止によって抑え込むことは不可能である。知識財産処は、公式の共有・検証プラットフォーム（社内アプリストア）を設けることで、セキュリティとガバナンスを担保しつつ、草の根の技術革新力を組織の公式能力へと統合（制度的包摂）している。

定型・反復作業の完全委譲により、専門職公務員の職務価値が「高度意思決定者」へと再定義される。

Lower Step (過去):

情報収集・一次スクリーニング

特許文献の比較、法案の対照作業、資料探索などの定型分析。AIエージェントへの代替が進行。

高度意思決定者

事務処理者

Higher Step (未来):

戦略的判断・解釈

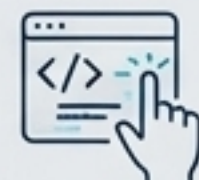
精緻な新規性判断、法理的解釈、国家知財戦略の企画立案など、人間ならではの高付加価値業務への集中。単なる事務処理から、高度な意思決定へのシフト。

「受動的な外部調達」から「能動的な内製化」へ。 これは全大規模組織に向けたAX（AI転換）の実践的指針である。



アジリティの劇的向上

巨額の予算と時間を要する外部調達を脱却し、変化に即応する内製化体制を構築。



テクノロジーの民主化

バイブコーディングにより、プログラミングスキルを持たない現場職員をイノベーターへ転換。



エコシステムの確立

「作って終わる」のではなく、共有と評価の循環により、組織全体のソフトウェア資産を継続的に洗練させる。

生成的な経路を伴った組織を組織に改革（AI転換）の実践的指針とし、
知識財産処のIP-AXモデルは、生成AI時代における公共部門および大規模組織の組織変革を具現化する、先駆的かつ再現可能なマスタークラスである。